

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25871065

研究課題名(和文) 17-19世紀南米ラプラタ地域イエズス会布教区の住民名簿に関する歴史人類学的研究

研究課題名(英文) A Study of the Historical Anthropology regarding the Census Records of the Jesuit Missions in the Rio de la Plata Region of South America, during the 17th and 19th Centuries

研究代表者

武田 和久 (Takeda, Kazuhisa)

早稲田大学・高等研究所・助教

研究者番号：30631626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1609年から1768年にかけてのスペイン統治時代の南米ラプラタ地域(現在のパラグアイ南東部、アルゼンチン北東部、ブラジル南部、ウルグアイからなる領域)でイエズス会士が運営した、総数30の布教区と呼ばれた居住地の住民名簿の通時的な分析を行った。本研究が主たる分析対象としたのが布教区住民名簿であり、名簿は1656年から1801年にかけての特定時期にスペイン人官吏が布教区を巡察した際に作成された。その数はおよそ250、30箇所の布教区すべてを網羅している。名簿の分析を通じて、イエズス会士が約160年にわたり実践したキリスト教布教政策が先住民に与えた社会文化的インパクトを解明できた。

研究成果の概要(英文)：This study analyzes the census records of the 30 community villages referred to as *reduccion* in Spanish, which were organized by the missionaries of the Society of Jesus in the Rio de la Plata region of South America, during the colonial period extending from 1609 to 1768. The region embracing these villages comprises present-day southeast Paraguay, northeast Argentina, south Brazil and Uruguay. The principal historical document analyzed by this research consists of the numerous name lists of the inhabitants, who were Guaraní Indians. This document was composed on the occasion of the general inspection carried out by the Spanish government officials, and the duration involved extended from 1656 to 1801. The total number of census records works out to approximately 250, and they deal with all 30 villages. Through an analysis of these many documents, the great socio-cultural impact of the Jesuit missionary policy on the Guaraní Indians during a period of almost 160 years was unraveled.

研究分野：ラテンアメリカ史

キーワード：イエズス会 グアラニ先住民 住民名簿 カシカスゴ 軍事

1. 研究開始当初の背景

布教区とは、先住民をキリスト教化するための居住地であり、特にイエズス会管轄下のそれが世界的にも名高い。布教区はスペイン語ではミシオン (misión) もしくはレドゥクション (reducción) と呼ばれる。スペイン領南米ラプラタ地域では一世紀半、グアラニと呼ばれる先住民のキリスト教化が布教区で大規模に進められた。

平成 20-22 年度、研究代表者は、布教区の先住民社会組織の研究に取り組んでいた。布教区運営の際、イエズス会士は、内部に複数の組織を設け、一部のグアラニを役職に据え、業務補佐として活用した。組織の内訳は、エリート先住民が属した政治組織カピルド (cabildo) スペイン領の防衛を担った軍事組織ミリシア (milicia)、各種年中行事を執り行った宗教組織コフラディア (cofradía)、親族集団カシカスゴ (cacicazgo) などである。こうした組織に関しては、20 世紀初頭から中葉に主だった研究が公にされ、個々の組織の概要が明らかにされた。しかし組織の内部構造や、他の布教区と比べた際のその類似・差異点といった詳細は未解明であった。

平成 20-21 年度に実施したアルゼンチン、パラグアイ、チリでの調査を経て、研究代表者はその成果の一部を論文にとりまとめた (拙稿「スペイン統治期ラプラタ地域のイエズス会布教区における先住民社会組織」『ラテンアメリカ研究年報』2010 年)。調査を通じて相当数の未刊史料を入手したが、歴史人類学的観点から注目に値したのが、住民名簿と徴兵簿だった。前者は一見すると先住民の氏名、年齢、家族関係の羅列であり、また後者は軍事役職者および一般兵士の氏名の羅列に過ぎない。しかしこれらの記載事項を世帯区分や社会的地位に着目して分類・数値化したことにより、未解明だったカシカスゴと軍事組織の形態・機能・相互関係が明らかになった。

名簿に着目することは、研究代表者のその後の研究に大きな転機をもたらした。様々な目的のもとで作成された各種名簿を大量に収集して比較分析することで、布教区それぞれの組織の詳細が解明され、この分析結果を他の布教区の諸組織と比較することにより、最終的には布教区全体の組織像が浮かび上がる可能性がわかってきたからである。イエズス会布教区関連の研究に関しては、これまでは主に叙述史料の分析を中心に進められてきた。しかし研究代表者が取り組んできた先住民社会組織の解明にあたり、名簿が活用されたことはほとんどない。

平成 22 年度の 1 年間はアルゼンチン国立サン・マルティン大学社会科学高等研究所の客員研究員としてブエノスアイレスに滞在し、国立総文書館で住民名簿の調査・収集・分析に取り組んだ。その数はおよそ 250、総数 30 の布教区すべてを網羅している。

平成 24-25 年度は、日本学術振興会海外特

別研究員として、スペイン高等科学研究院イソパノアメリカ研究部門受入のもと、セビリヤのインディアス文書館でアルゼンチンの名簿の欠損部分の調査・分析を行い、17 世紀中葉から 150 年にかけて作成された名簿の総体的な分析に取り組んだ。

2. 研究の目的

布教区編入以前のグアラニ先住民は、男性家長が一つの家屋に居住する妻子や親族を統率する大家族を構成した。イエズス会士はこれをカシカスゴと呼び、複数のカシカスゴを束ねて一つの布教区を作った。

本研究の分析対象である住民名簿は、布教区のごうした社会状況の反映である。名簿にはグアラニの氏名や年齢が世帯ごとに記され、複数の世帯はカシカスゴを形成する。一つのカシカスゴはカシケ (cacique) と呼ばれる先住民首長によって統括されている。こうした個々のカシカスゴを布教区・年代ごとに整理・グラフ化すれば、一つの布教区内のカシカスゴごとの人口や世帯数の変化が明らかになり、このデータを別の布教区のそれと比較分析することにより、布教区ごとのカシカスゴの特徴が明らかになり、こうした分析データを他の政治、軍事、宗教組織と比較することで、組織の全体構造が明らかになる。

住民名簿を用いた先行研究は確かに存在する。しかし布教区ごとの総人口数などに研究の関心が集中するあまり、各布教区のカシカスゴの構成員の氏名、年齢、家族関係に関するデータを拾い上げて分析し、個々の布教区の社会状況の詳細を解明しようという発想はない。またカシカスゴの観点からの先行研究も存在するが、特定の布教区の住民名簿を分析する部分的な試みに終始した。現存する 250 の名簿が体系的に収集され、その中身が分析対象となるのは、管見の限り、本研究が初の試みである。

叙述史料の分析を主体とする従来の研究では、総数 30 の布教区が同質的に扱われてきた。しかし布教区それぞれは、異なる設立経緯を有し、住民も民族的に多様であった。こうした個別的データは等閑にふされ、住民は「グアラニ」と一括されてきた。今後、先行研究と一線を画する研究領域を開拓するには、個々の布教区ならびにその住民の多様な異質性を詳細に明らかにしていく必要がある。

個々の布教区の社会状況の詳細の解明は、カシカスゴの分析を通じて、少しずつではあるが明らかになってきた。布教区は、150 年の存続期間、移転、統合、消滅など、様々なプロセスを経験した。しかしカシカスゴは、こうした状況の中でも存続し続けた。グアラニは、出身、年齢、性別、身分に関係なく、必ずいずれかのカシカスゴに所属した。そしてカシカスゴを拠り所として、経済活動や宗教行事などに従事した。つまりカシカスゴとは、布教区を支える下部組織であり、長期持

続性と凝集性という特徴を有した。しかしこれまでの研究では、布教区という単位を中心に議論が進められてきた。

本研究が目指したのは、布教区史からカシカスゴ史への転換であった。組織的な観点からみれば、グアラニは、布教区の一員である前にカシカスゴの一員であった。グアラニは、カシカスゴ単位で人的関係を結び、これが布教区の歴史を通じて存続していたのだ。

3. 研究の方法

(1) 一つの布教区内のカシカスゴの分析

本研究では、住民名簿の記載事項を次の手順に従って整理した。

個々の布教区のカシカスゴの総数を時代ごとに整理。

個々のカシカスゴを統率する先住民首長の氏名を時代ごとに整理。

個々のカシカスゴを構成する世帯数とその構成員の氏名、性別、年齢、続柄を時代ごとに整理。

こうして整理されたデータをもとにグラフを作成し、布教区ごとの総人口、個々のカシカスゴの数、その構成員の数の増減などを、通時的に把握した。そしてある特定の時期にみられるグラフの上昇・下降の原因を、同時期に書かれた年代記、書簡、報告書、伝記といった叙述形式の史料の分析を通じて特定した。こうした二種類の史料を相互補完的に活用することで、ある布教区のカシカスゴの動態を長期的なタイム・スパンから具体的に明らかにした。

(2) 異なる布教区間でのカシカスゴの比較分析

17世紀後半以降になると、既存の布教区を母体として新たな布教区が建設されるケースがあったが、その際に指摘されているのが、先住民首長が配下の人々と他所へ移り住んだということである。この移住のプロセスはカシカスゴの移転に等しいと考えられ、既存と新設、二つの布教区におけるカシカスゴの関係といった問題も、住民名簿の分析を通じて解明した。

(3) カシカスゴの構成員と他の組織の構成員との比較分析

布教区内部には、カシカスゴの他に、政治、軍事、宗教組織などが存在し、個々の組織には、職務に応じて様々な役職が設けられていた。いずれの役職も、布教区内の要職に相当し、役職者は社会的地位が高い者とみなされた。

各組織の役員名簿は一部現存する。こうした役員名簿と、住民名簿の中身を照らし合わせることで、ある組織の役員が、どの程度の規模のカシカスゴから選出されていたのかという問題を解明した。

4. 研究成果

本研究の成果はスペイン語論文にまとめられた。タイトルは「イエズス会グアラニ布教区における集住政策の社会文化的作用」(Efectos socioculturales de la política de reducción en las misiones jesuítico-guaraníes)である。ペルー・カトリック大学より2016年度中に出版予定である。本稿では、布教区編入以前のグアラニの在来の社会組織とカシカスゴとの関連をまず論じた。(1)編入以前のカシケの支配権は、家、村、領域など、様々なレベルに及んでいた。しかし編入以後、その支配権は家に限定され、このレベルの人的まとまりがイエズス会士によりカシカスゴと同定された。(2)次に、複数のカシカスゴがまとまってバリオと呼ばれる居住区域が布教区内に存在したことを指摘した。バリオには上位と下位、少なくとも二種類が存在した。こうした事実を、1657年口レート布教区に関する住民名簿と、同じく同年作成のカシケの氏名が記された二種類のリストの比較分析を通じて解明した。

この研究成果が得られるまでの間、研究代表者は、以下で言及されている国内外で開催された学会や研究会において、研究発表を継続し、コメントを踏まえながら上記論文を執筆した。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計3件)

武田和久「カシカスゴのバリオへの統合—スペイン統治期ラプラタ地域のイエズス会グアラニ布教区の事例—」日本ラテンアメリカ学会第35回大会、関西外国語大学(大阪府)2014年6月7日。

Kazuhisa Takeda, “La política de reducción de los jesuitas y la transformación de liderazgo indígena: el caso de las milicias guaraníes,” *Seminario de Departamento de Historia de América*, Universidad de Sevilla, 19 de febrero de 2014 (セビリア、スペイン)。

Kazuhisa Takeda, “Análisis dinámico de los padrones de indios guaraníes: la concentración poblacional de los jesuitas e impacto sociocultural,” *Conferencia en Escuela de Estudios Hispanoamericanos*, CSIC, Sevilla, España, 4 de diciembre de 2013 (セビリア、スペイン)。

〔図書〕(計1件)

Kazuhisa Takeda, “Efectos socioculturales de la política de reducción en las misiones jesuítico-guaraníes: transformación del cacicazgo y nacimiento de una nueva identidad,” Akira Saito y Claudia Rosas Lauro (eds.) *Las reducciones indígenas en debate: su impacto en los dominios de la monarquía hispánica*: Lima, Pontificia

Universidad Católica de Perú, [2016], en prensa (総ページ数未定).

〔その他〕

書評論文

武田和久「Peter Lambert and Andrew Nickson (eds.), *The Paraguay Reader: History, Culture, Politics*, (Durham: Duke University Press, 2013)」『ラテンアメリカ研究年報』第 34 号、2014 年 6 月、117-131 頁。

現地調査報告

武田和久「スペイン、セビリアにおける在外研究 (2012-2013)」、『ラテンアメリカ・カリブ研究』第 21 号、2014 年 5 月、56-71 頁 (<https://lacsweb.files.wordpress.com/2013/04/21takeda.pdf>)

6 . 研究組織

研究代表者

武田和久 (TAKEDA, Kazuhisa) 早稲田大学・高等研究所・助教

研究者番号 : 3 0 6 3 1 6 2 6